1/4）で表示されている．各頁にはその種類の日本全体の分布や後述の分布型などが簡単に記されている．巻末に古池 博氏による県内の分布型の詳細な検討結果が述べられている．これはメッシュデータの利点を生かし，水平垂直のいくつかの区分に出現する分布点数を数値処理して判定するもので，十分なデータ量と植生地理学的知識の上にはじめて可能となったものである．分布型は0型から8型まであり，さらにその中が，多いものは9型にも細分されている．分布と環境諸要因の関連を理解するために，地形，水系，高度，気象諸要素などの分布を印刷した透明シート10枚が付けてある．本書の作成は1985年以来10年をかけ，原則として標本に基づき，引き続いて草本も目指すとのことで，新潟県植物分布図集とともに，日本海地域フロラの解明に大きく貢献するものである．地図は県の海岸線と県境だけを几帳面に描いたものだが，全体の理解のためには隣接地域も書き込んだ方がよい．とくに能登半島の富山県側が欠けているのは不自然である．この部分を書き入れても，図の配置には影響しない．またメッシュは省いて経緯度線数本にとどめ，代わりに等高線をいれた方が分布図としては見やすいと思う．本質には関係ないことだが，まだ先の計画があるとのことなので，検討いただきたい．購入希望者は右に連絡されたい．921 金沢市泉野出町 3-10-10 金沢泉丘高等学校・本多郁夫（tel. 0762-41-6117 fax. 0762-45-5253）． （金井弘夫）

□高橋 文（訳）・C. P. ツュンベリー：**江戸参府随行記** 406 pp. 1994. 平凡社東洋文庫. ￥2,987.

ツュンベリーは日本植物の研究者であり，ヨーロッパへの紹介者であることはもちろんだが，日本そのものの紹介者でもある．本書は彼の旅行記の中から日本に関する部分を，スウェーデン語から直接訳したものである．前半の約200頁が日本到着，出島滞在，江戸への往復の旅行記にあてられている．植物の記述もさることながら，道中や滞在地の景観，風俗がこと細かに描写され，日本人ではかえって見過ごしてしまう当時の貴重な記録となっている．次の120頁は日本と日本人をいろいろの観点から紹介記述している．これはもとよりヨーロッパの極東政策に利するためのものではあるが，自然ばかりでなく，統治，法律と警察，日本語，商業，宗教など，多くの視点から論じたものである．日本語の項では，自分で日本語を覚える努力はしたものの，それまでの200年にわたってたくさんのオランダ人が滞在したのに，役にたつ日本語語彙集がつくられていないことに不満をのべている．もっとも，日本語を習うのは国禁だったようだ．飲物はお茶と酒しかなく，葡萄酒や蒸留酒は決して飲まず，コーヒーの味のわかる通詞などおらず，火酒が日本人の必需品となることは決してないとしている．無理もないが，焼酎は試みなかったようだ．暦の比較，一日4回かかさず行った気温観測の記録，日本の道具類のスケッチが，資料としてついている．最後に木村陽二郎氏，片桐一男氏が，それぞれの立場からまとめの文を添えている．植物の面ばかりでなく，自然誌，文化史，民俗資料としても有用な翻訳をされた高橋氏の努力を多としたい． （金井弘夫）